

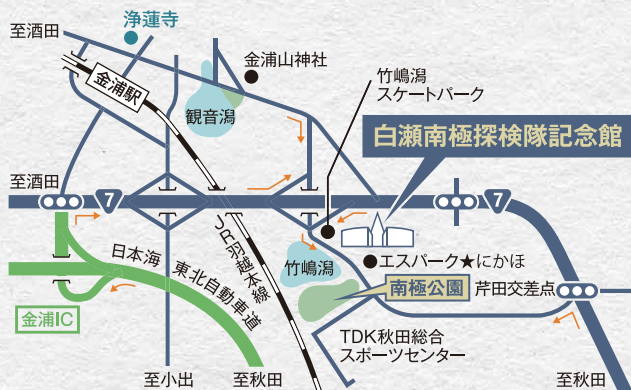
年号と白瀬嘉の年齢

文久元年 [1861]	しらせのふ 白瀬 麟、文久元年(1861)6月13日、秋田県由利郡金浦村に生まれる。幼名は、知教。	
明治5年 [1872]11歳	のふ 11歳の麟は、近所の蘭学者佐々木節斎先生から「北極」の話を聞き、探検家を志す。	
明治12年 [1879]18歳	そうしやく 9月、僧職の道からはなれ、軍人になるため、 しやうどうたんきへい 日比谷の教導団騎兵科に入団。名のふ を麟と改名。	
明治26年 [1893]32歳	将来の北極探検に備えて郡司成忠海軍大尉の「千島探検」に加わり、最北端の占守島で2年を過ごす。	
明治43年 [1910]49歳	7月、朝日新聞誌上で南極探検隊員募集広告が掲載され300名を超える応募者の中から、27名が決定。一同は血判して探検の成功を誓う。 とうどうへい はちろうげんし 11月29日、東郷平八郎元帥が命名した「開南丸」(204トン)で かいなんまる 隊員、船員27名を乗せ、東京芝浦から南極に向けて出航。	
明治44年 [1911]50歳	2月8日、「開南丸」はニュージーランド・ウェリントンに寄港。11日、出港。3月14日、南緯74度16分、東経172度07分 はば コルマン島付近で氷海に前進を阻まれ、上陸を断念。オーストラリア・シドニーへ向かう。5月1日、シドニー到着。キャンプ生活に入る。 11月19日、「開南丸」シドニーを出港。 12月14日、アムンセン隊、南極点に到達。	
明治45年 [1912]51歳	1月16日、南極大陸初上陸。南緯78度17分、西経162度50分。「開南湾」と命名。ロス海ホエール湾に到着。アムンセン隊のフラム号と出会う。 1月17日、スコット隊、南極点に到達。(帰途、全員遭難死。) そうなんし しらせのふ たけだてるたろう みいしせいぞう やまびやくせいやくすけ はなもり 1月20日、白瀬 麟、武田輝太郎、三井所清造、山辺安之助、花守しんきち 信吉の突進隊5名が、犬ぞりで南極点に向かい出発。 1月28日、午前零時20分、南緯80度05分、西経156度37分に到達。日章旗を立て、一帯を「大和雪原(やまとゆきはら)」と命名。 6月20日、「開南丸」が延べ4万8000キロ、1年7ヵ月近くにわたる長旅を終え、一人の犠牲者も出さずに無事、芝浦に到着。歓迎式には5万人の熱狂的な市民が集まった。	
		
「開南丸」船上の隊員たち		大和雪原に日章旗を立てる

白瀨南極探検隊記念館

Ｅメール shirase@city.nikaho.lg.jp

開館時間	9:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日	毎週月曜日、年末・年始(12月29日～1月3日) (月曜日が国民の祝日の場合は、その次の平日)
入館料	●一般／300円 ●小中学生／200円 ●団体(20人以上)／通常の100円引き ●障がい者／無料 ●にかほ市内の小中学生／無料



浄蓮寺(白瀬 轟 生家)
当館より車で5分



白瀬瀧夫妻が晩年の一時期を過ごした浄蓮寺の書院。当館裏手に移築(平成9年)



The Shirase Antarctic Expedition Memorial Museum

白瀨南極探検隊
記念館

探検と極地の総合ミュージアム

まっすぐ進むべきものである

人間は目的に向かつて剛直に、

はじめに

白瀬南極探検隊記念館は、
少年時代から極地探検を志し研鑽^{けんさん}を重ねた

のかほ市出身の白瀬轟と

彼の壮大な夢とロマンに共感した

三十人の男たちが明治末期

南極の白い大陸に繰り広げた

壮絶な人間ドラマを

やかた
記録した館である。

白瀬南極探検隊記念館は中央の円形の池に配置された円錐形の形態と、それを取り囲むように配置されたドーナツ形の形態によって構成されている。円錐形の形態は「氷山」を暗示するものであり、できるかぎり遠くからもランドマークとして見えるようにしたいと思った。純粋な幾何学上の形態は、「氷山」を表現するだけではなく、白瀬南極探検隊の厳しく、又崇高な偉業を示している。それを取り囲むドーナツ形の形態は、南極探検隊全員のチームワークを表現しているばかりではなく、太陽のまわりを巡っているわれわれの住む地球、太陽系の宇宙をも暗示している。エントランス・ロビーには、時の変化を示す窓が設置しており、そこから射し込んでくる光は、人々に時間の感覚を呼び起こさせるであろう。

建築家 黒川 紀章(故人)



崇高な偉業が甦る、探検と極地の総合ミュージアム

白瀬の夢が今もお受け継がれている！

プロローグゾーン

果てしなき夢を追い求めて南極探検に挑んだ白瀬。彼の足跡が、後の日本の南極観測へとつながっていきます。入口エントランスでは、南極昭和基地のライブ映像がお出迎え。日本の6時間遅れの現在の南極を実感！



白瀬と共に夢を追い求めた隊員たちの足跡をたどる。

白瀬と南極探検隊ゾーン



このゾーンでは白瀬をはじめ、南極探検を夢見て運命を共にした隊員たちの足跡をふりかえります。さらに「開南丸」内部の復元、同時期に南極点をめざしたアムンセン、スコットなどの探検家たちによる命をかけた南極点到達レースの模様や、彼らが使用した帆船模型を展示しています。



探検に使用した開南丸の船尾と内部を忠実に再現



「南極に向かって航行中の開南丸」三宅幸彦隊員の墨絵

今まで知らなかった南極に関する情報・魅力が満載！

「白瀬の夢を継ぐ」ゾーン

白瀬の夢を継いで始められた日本の南極観測の歴史、そして現在の南極観測の状況や不思議大陸のあれこれを映像を交えて紹介。



極点到達の雪上車を実物展示。運転席にも乗れるよ！

雪上車展示ゾーン

昭和43年(1968年)12月19日、村山雅美隊長(故人)率いる第9次越冬隊による極点旅行チームが日本人として初めて南極点に到達。その時に使用された大型雪上車「KD605」が当時の勇姿を残したまま公開。実際に雪上車に乗り込み、南極探検の気分を満喫できます。



南極点到達に使用された雪上車「KD605」
2014年機械遺産認定！

運転席に座ってみよう！

“夢を追う男”プロ冒険家 阿部 雅龍



白瀬南極探検隊の最終到達地・大和雪原から南極点をめざす前人未到の「白瀬ルート」に挑戦した秋田県出身のプロ冒険家阿部雅龍氏。白瀬が果たせなかった夢を引き継いだ彼の冒険の軌跡、功績をご覧になれます。

4次元デジタル地球儀

「ダジック・アース」

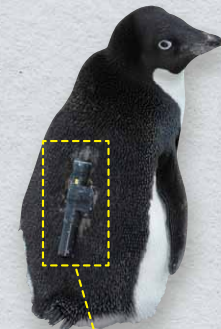
ダジック・アースとは、地球や惑星などの宇宙科学を立体的な4次元地球儀をつかって表示する手法です。白瀬南極探検隊が挑んだ南極は地球上ではどこに位置しているのか、またどのような気候であるのかを立体的に観察することができます。そのほかにも、月や木星などもくるくる回して、普段見ることができない部分を観察してみましょう。



ペンギンたちはどういう行動を？

「ペンギン撮影映像」

国立極地研究所では、世界初となる野生ペンギンの背中にビデオカメラを取り付けペンギンの行動を観察しています。ペンギンが潜水しているときに動画が撮影できるようビデオロガーという直径21mm、長さ80mmの耐圧ケースに小型ビデオカメラを収納したものを使い撮影しています。ペンギンが集団でどういう行動をしているか、どんな餌をどのくらい食べているかなど、いろいろな情報を得ることができます。



ビデオロガー
(小型ビデオカメラ内蔵)

「船模型展示」

白瀬隊「開南丸」と「宗谷」から「新しらせ」まで、歴代の南極観測船を展示。



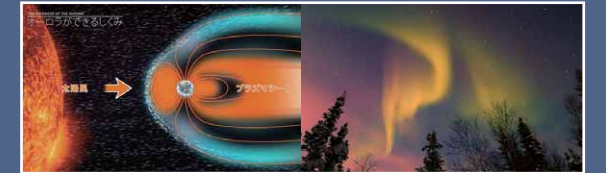
「売店コーナー」

白瀬記念館オリジナルグッズや、ペンギン、アザラシなど、かわいいぬいぐるみがたくさん。



オーロラドーム

南極・昭和基地で実際に撮影されたオーロラや世界各地のオーロラを上映。世界の空を幻想的に彩る光のカーテンは皆さまを未知とロマンの世界に誘います。



オーロラができるしくみや種類も解説

極地・南極でたくましく生きる不思議なきものたちを紹介する「南極の自然といきもの」も同時上映しています。

同時上映！



にかほ市デジタルミュージアム

白瀬南極探検隊記念館が収蔵する貴重な資料をデジタルミュージアムとして公開しています。ご自宅のパソコンやスマートフォンからいつでも、どなたでもご覧になれます。

